

科目	日本史	出題意図	本試験は、大学入学後の学業遂行に必要となる、高等学校段階における基礎的な学習内容を理解しているかを問うものです。
入試期	前期Ⅲ		
試験日	2025年2月5日		
試験時間	2教科連続 130分		

(I)

問1 1

問2 4

問3 【解答例】

3代執権の北条泰時が、最初の武家法である御成敗式目を定めた。(30字)

問4 4

問5 4

問6 3

(II)

問1 1

問2 隼人

問3 5

問4 2

問5 3

問6 4

(III)

問1 4

問2 【解答例】

将軍と主従関係を結んだ1万石以上の武士であり、親藩・譜代・外様に分けられた。(40字)

問3 4

問4 6

問5 1

問6 2

(IV)

問1 協調

問2 1

問3 4

問4 3

問5 1

問6 2

(V)

問1

(ア) ⑤

(イ) ①

(ウ) ③

問2 【解答例】

家臣が婚姻を通じて、他国の大名などとの関係を結ぶのを防ぐため。(30字)

問3 【解答例】

中世以来の法慣習を積極的に取り込んで分国法とし、喧嘩両成敗を規定して自力救済を抑制した上で、自ら裁判を行うかたちで紛争解決を実現しようとした。これにより、大名権力の絶対化を図り、他の権力に従属しない権力を保持する存在として、一円的な領国支配を実現しようとした。(130字)

紛争解決は自力救済が基本であったが、戦国大名は、他の権力に従属しない権力を持ち、裁判による紛争解決をはかろうとした。公正な裁判を行うためには、その基準として法令が必要であり、中世以来の法慣習を受け継ぎながら、分国法を制定し、国家的な領国支配を実現しようとした。(130字)